

第138回神奈川大学日本常民文化研究所研究会



# 仏教民俗の二重構造に関する問題 — 摩耶夫人夢物語の象モチーフを事例に —

片茂永氏

愛知大学国際コミュニケーション学部  
教授

日時：2024年2月21日(水)17:30～19:00

参加無料

会場：横浜キャンパス 9号館12室(日本常民文化研究所)

(+オンラインのハイフレックス開催)

オンライン (Zoom) 参加は、右のQRコードより申し込みください。IDとパスワードが自動返信メールにて送信されます。会場での参加は申込不要です。



神奈川大学日本常民文化研究所

# 仏教民俗の二重構造に関する問題

—摩耶夫人夢物語の象モチーフを事例に—

そもそも民衆の為に説かれたのは仏教ではなく仏教〔聖〕と民俗〔俗〕の合体である。聖言を分かりやすくする俗説〔隠喩語〕を方便といい、待機説法とも言われる。仏教説話・仏教絵画・仏教芸能等の大半は待機説法の副産物である。即ち、仏教民俗は一元的な二重構造であって、仏教を切り離して俗説のみを研究対象とすることは矛盾になる。

従って、聖言と俗説の相互の座標をまず明確にすべく中国の僧祐の考えを継承した。分析対象は摩耶夫人夢物語の象モチーフであって、その結果、インドから中国や韓国、日本、東南アジアに渡る地域ごとの特色が浮彫りになった。このような分析の積み重ねが比較仏教民俗学への土台になることは言うまでもない。